

一 目 次

ごあいさつ	2
シンボルマーク・さくらサミット憲章・WEB サイト	3
サミット加盟自治体	4
これまでの開催地・テーマ一覧	5
タイムスケジュール	6
講師プロフィール	7
加盟自治体の紹介	
北海道新ひだか町	8
宮城県柴田町	9
秋田県仙北市	10
福島県富岡町	11
茨城県日立市	12
群馬県前橋市	13
埼玉県北本市	14
埼玉県幸手市	15
東京都豊島区	16
東京都北区	17
新潟県新発田市	18
長野県伊那市	19
岐阜県高山市	20
岐阜県各務原市	21
岐阜県本巣市	22
愛知県犬山市	23
奈良県吉野町	24
岡山県津山市	25
島根県益田市	26
島根県雲南市	27
福岡県八女市	28
長崎県大村市	29
熊本県水上村	30
宮崎県日南市	31
新潟県五泉市	32

ごあいさつ

五泉市長 **伊藤 勝美**



桜のまち五泉市へようこそお越しくださいました。満開の桜とともに皆様を心から歓迎申し上げます。「第22回全国さくらサミット in 五泉」を開催するにあたり、加盟自治体の皆様方には準備の段階からご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、遠方よりご参加いただきました加盟自治体の皆様には、年度当初のお忙しい時期にも関わらず、ご参加いただきまして重ねて厚く御礼申し上げます。

このサミットは、桜をまちのシンボルとし、まちづくりを推進する自治体が連携して、ともに発展することを目的に毎年開催されております。

本市は、一昨年に岐阜県各務原市で開催された「第20回全国さくらサミット in 各務原」より加盟し、この度、ご縁がありまして本サミットを開催させていただくことになりました。開催にあたりご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、本市には、日本さくら名所100選に選ばれた「村松公園」、昭和3年に国の天然記念物に指定された「小山田ヒガンザクラ樹林」、奈良時代に絶滅したとされる「穗咲彼岸八重桜」があり、いずれも地域の誇りとして守り育てられてきたものであります。

今回のサミットでは、「さくらでつなぐ絆、交流」をテーマに、本市が取り組んでいる桜の花びらを使ったアロマ製品の開発なども参考に、桜を活用した特産品の開発やPRの手法のほか、桜の保全や実際に保全活動に取り組んでいる方たちのための勉強会の開催など、様々な視点から幅広く討論し、サミット加盟自治体の交流がより進んでいくことを願っております。

最後に、東日本大震災が発生して3年が経過しましたが、未だ復旧復興は進んでいない状況であります。サミット加盟自治体の中にも被害に遭われた自治体があり、あらためてお見舞い申し上げるとともに一日も早い復興をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

シンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球を表す円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、未永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

さくらサミット憲章

(平成元年9月22日制定)

Success
成功

第1条：今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach
接近

第2条：「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword
言葉

第3条：まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity
調和

第4条：文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation
縁

第5条：「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement
合意

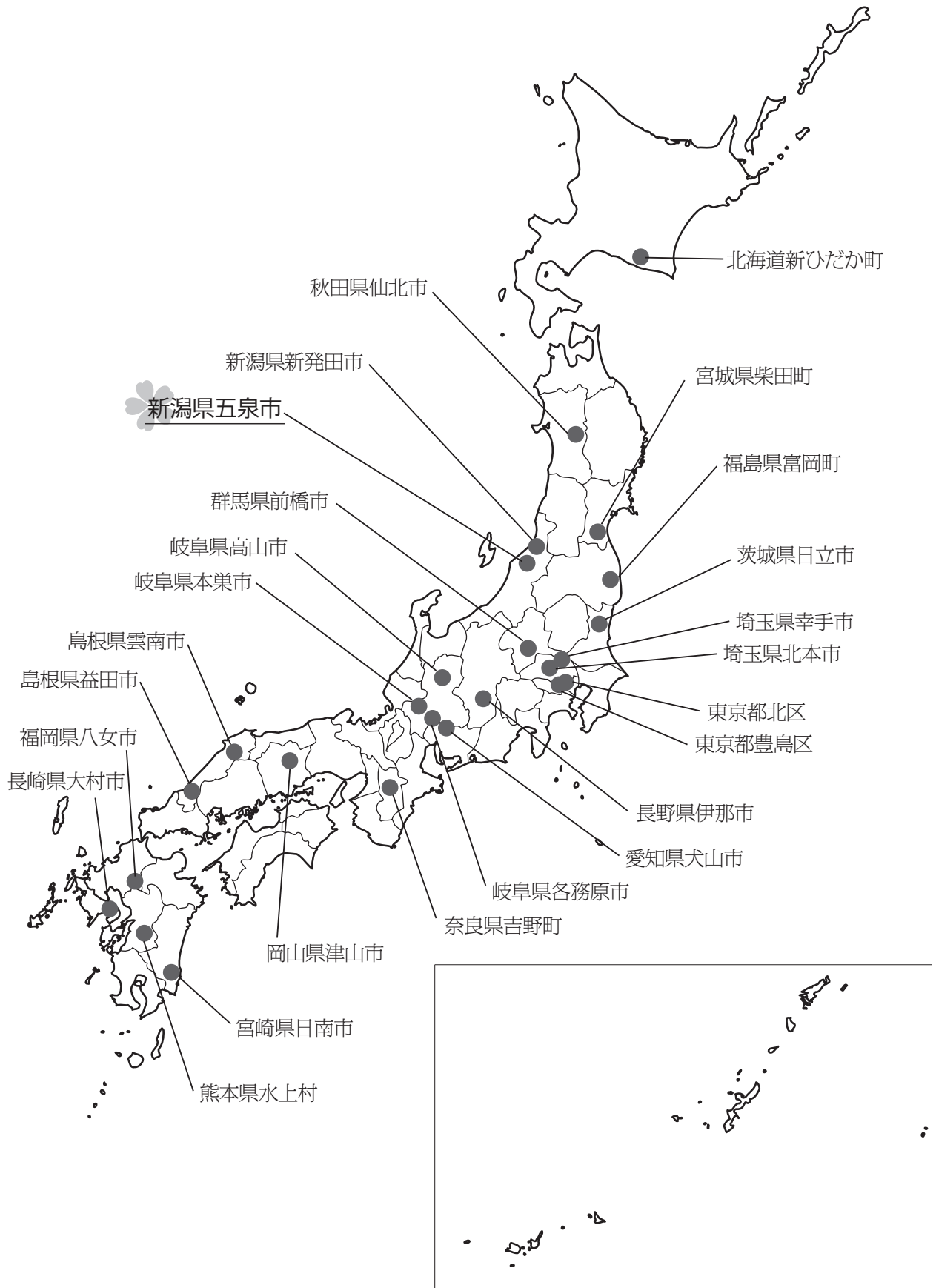
第6条：共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

WEB サイト

平成24年に開催された「第20回全国さくらサミット in かかみがはら」において、第20回を記念してサミット加盟自治体の連携強化・情報共有のために「全国さくらサミット 第20回記念サイト」の開設が承認されました。これまでのサミットの歩み、開催情報などが閲覧できます。

「全国さくらサミット 第20回記念サイト」 <http://www.orion-net.sakura.ne.jp>

サミット加盟自治体



これまでの開催地・テーマ一覧

	開催地	開催日	テーマ
第1回	島根県木次町	昭和63年4月11日(月)	"桜"によるまちづくりと地域間交流
第2回	長野県高遠町	平成元年9月22日(金)	桜によるまちづくりと地域活性化
第3回	群馬県鬼石町	平成2年11月15日(木) 16日(金)	桜による地域開発
第4回	秋田県角館町	平成3年4月30日(火)	桜による産業づくりと文化
第5回	長崎県大村市	平成4年4月4日(土)	桜をめぐる観光と交通
第6回	奈良県吉野町	平成6年4月21日(木)	さくら文化の醸成
第7回	高知県佐川町	平成7年4月6日(木) 7日(金)	桜に憩う、桜を楽しむ
第8回	北海道静内町	平成8年5月9日(木) 10日(金)	さくらサミットからの桜情報の発信
第9回	新潟県上越市	平成9年4月13日(日)	桜のまちづくりと住民参加
第10回	東京都北区	平成10年4月5日(日)	さくらがつくる歴史と文化 一わがまちの桜一
第11回	宮城県北郷町	平成11年4月4日(日) 5日(月)	人にやさしく桜にやさしい環境づくり
第12回	埼玉県幸手市	平成12年4月9日(日) 10日(月)	幸せの手でつかむさくらの未来
第13回	茨城県日立市	平成13年4月7日(土)	桜と語るさくらの未来 ～元気さくらとネットワーク
第14回	岐阜県根尾村	平成14年5月18日(日)	さくらと歩む地域の未来
第15回	熊本県水上村	平成16年9月30日(木) 10月10日(金)	桜から桜まで ～ツーリズムと通年型観光～
第16回	福島県富岡町	平成18年1月26日(木) 27日(金)	～桜でひとつになる瞬間(とき)～ 未来への架け橋
第17回	長崎県大村市	平成19年4月14日(土) 15日(日)	わがまちの桜とまちづくり
第18回	秋田県仙北市	平成21年7月11日(土) 12日(日)	～さくら・景観～
第19回	奈良県吉野町	平成22年7月15日(木) 16日(金)	未来へ!桜を守り育てよう
第20回	岐阜県各務原市	平成24年4月8日(日) 9日(月)	さくらによる都市ビジョン ボランティアと連携するさくら
第21回	岡山県津山市	平成25年4月7日(日) 8日(月)	新たな桜の観光まちづくり ～地域資源を活用した観光振興～
第22回	新潟県五泉市	平成26年4月17日(木) 18日(金)	さくらでつなぐ絆、交流 ～さくらを生かした新たな取り組み～

タイムスケジュール

第1日目：4月17日（木）

※第1日目は加盟自治体関係者のみで開催いたします。

- 13：30 事前会議
- 15：10 エキスカーション（慈光寺「講話・座禅」）
- 18：00 交流会
- 20：00 夜桜見学（村松公園）



第2日目：4月18日（金）

- 08：30 開場
- 09：00 開会あいさつ
- 09：00 基調講演
「新しい方法で抽出した桜エキスとその機能的意義」
講師：塩田 清二 氏（昭和大学医学部顕微解剖学講座主任教授）
- 「新潟の桜」
講師：倉重 祐二 氏（新潟県立植物園副園長）
- 10：20 休憩
- 10：30 サミット全体会議
「さくらでつなぐ絆、交流
～さくらを生かした新たな取り組み～」
コーディネーター：篠田 伸夫 氏（元全国町村議会議長会事務総長）
- 13：00 閉会

講師プロフィール

基調講演 講師



塩田清二（しおだ・せいじ）

昭和大学医学部顕微解剖学講座主任教授

1974年に早稲田大学教育学部生物学研究科卒業後、新潟大学理学研究科修士課程修了、昭和大学医学部第一解剖学講座にて医学博士号取得。

日本アロマセラピー学会理事長、日本統合医療学会副理事長などを務める。2013年5月SHIODA ライフサイエンス研究所株式会社代表取締役社長に就任。

専門は神経ペプチドを中心とした神経科学。



倉重祐二（くらしげ・ゆうじ）

新潟県立植物園副園長

千葉大学大学院園芸学研究科修了。赤城自然園（群馬県）を経て、新潟県立植物園副園長、現在に至る。専門はツツジ属の栽培保全や系統進化、近代花卉園芸文化史。近年はツツジの園芸品種の起源やその伝播についての研究を行う。平成22年「大正時代に存在したツツジ類品種名の解明」においてAboc・CULTA賞を受賞。

環境省 生息域外保全計画植物分科会検討委員、環境省 動植物園等公的機能推進方策のあり方検討委員などを務める。著書に「日本の植物園における生物多様性保全」（日本植物園協会）など。

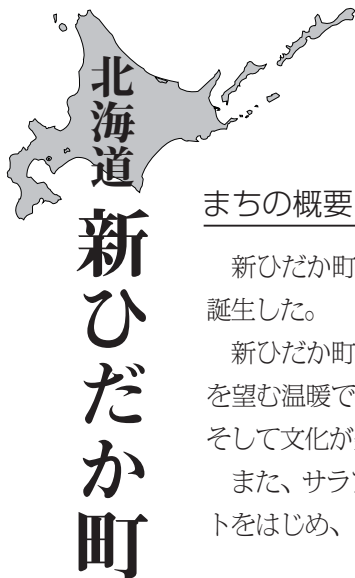
全体会議コーディネーター



篠田伸夫（しのだ・のぶお）

元全国町村議会議長会事務総長

1943年鳥取県生まれ。67年京都大学卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、88年に岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、岐阜県副知事、消防庁次長、救急振興財団副理事長、全国町村議会議長会事務総長などを歴任。現在、全国仮設安全事業協同組合専務理事、NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク理事長。「第10回さくらサミット in 北区」より、コーディネーターを務めている。



まちの概要

新ひだか町は、平成 18 年 3 月 31 日にそれまでの「静内町」と「三石町」が合併して新たに誕生した。

新ひだか町は北海道の南東部馬産地日高地方の中央に位置し、日高山脈を背に雄大な太平洋を望む温暖で緑あふれる自然に恵まれた「涼夏少雪の郷」であるとともに、行政、産業、経済そして文化が発達した日高地方の中核都市である。

また、サラブレッドの生産頭数は日本一で、ダービー馬ウイニングチケット、タニノギムレットをはじめ、G 17 勝のウオッカなど数多くの名馬を輩出し続けている。

桜の概要

新ひだか町の象徴「二十間道路桜並木」は、かつてこの地にあった宮内省所管の新冠御料牧場を視察する皇族方の行啓用として、幅二十間（36 m）、延長約 8km の雄大な道路が造成され、その両側に大正 5 年から 3 年をかけて近隣の山々から桜を移植し形成されたものである。

直線で 7km にもわたり、約 3,000 本の桜が一斉に咲き誇るその壮大なスケールは日本屈指であり、日本を代表する桜の名所として「日本の道百選」、「日本さくら名所 100 選」、「北海道遺産」、平成 21 年には「第 11 回花の観光地づくり大賞」に選定されるなど、数多くの栄誉に輝いている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

町のシンボルの一つとして、長年にわたり愛され続けてきた二十間道路の桜は、ほとんどが樹齢 100 年前後の高齢樹であるため、樹齢の衰えが随所に見受けられる。桜並木の整備に当たっては、樹勢回復と延命治療が最大の課題であると位置づけており、桜の診断・調査・治療（剪定管理）等を継続的に実施している。

また、多くの方の善意により今もなお増え続ける「さくら基金」は、桜によるまちづくりの貴重な財源として、今後の有効な活用方法を検討している。

◇新ひだか町 web サイト：<http://shinhidaka.hokkai.jp/>